

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

福岡県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	広川町立中広川小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	3	4	3	3	0	20	27
児童数	109	121	112	125	109	119	0	695	

研究の概要

1. 研究主題

学ぶことを楽しみながら確かな学力を身に付けていく子どもを育てる学習指導のあり方 ~ 評価に基づく指導体制・指導方法の工夫を通して ~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生から6年生国語(教科指導の基礎基本となるため)
1年生から6年生算数(子どもの理解度に差が出やすい教科であるため)
3年生から6年生社会(情報処理能力としての問題解決力が養われるため)

(2) 年次ごとの計画

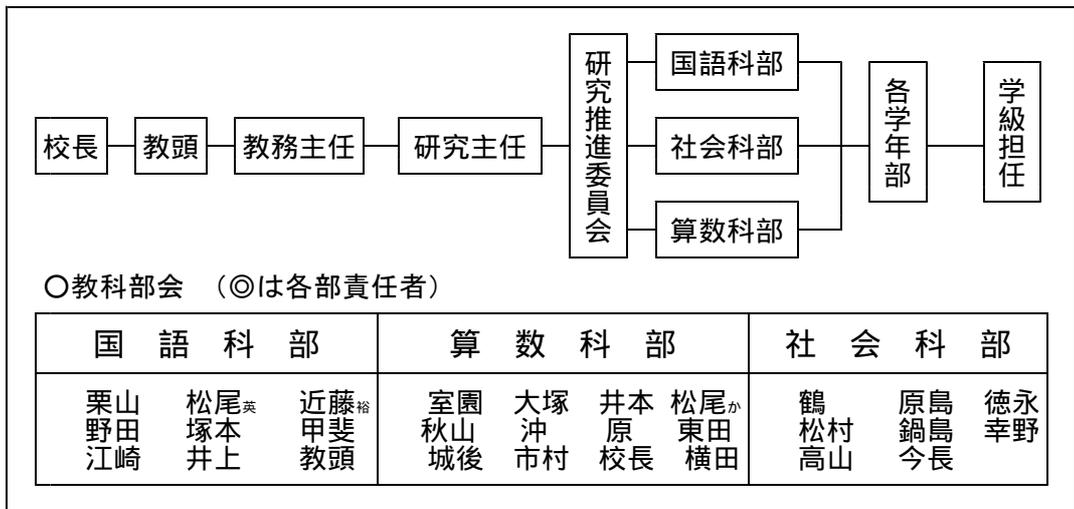
平成14年度	<p>テーマ 評価を生かした指導の改善(具体的な評価規準の作成) 指導内容の工夫改善(補充的教材の開発と活用) 仮説 仲間と共に学ぶことを楽しむ子どもを育てるために、次のような点から学習指導の工夫をすれば、一人一人に確かな学力を身に付けさせることができるであろう 学習段階における評価の重点化 評価を生かした補充的教材の活用 研究内容・方法 仮説解明の手順を明らかにする 単元の学習段階における評価とそれを生かした指導方法、補充的教材の類型化を図る 評価の重点化と評価を生かしたグループ別学習の学習過程の類型化を図る。 単元の学習段階における主な補充的教材を開発する 1単位時間における補充的教材の内容と位置づけを行う 研究教科と領域:国語(読むこと)算数(数と計算)社会(知識・理解を中心に)</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 評価に基づく指導体制・指導方法の工夫 仮説 仲間と共に学ぶことを楽しむ子どもを育てるために、次のような点から学習指導の工夫をすれば、一人一人に確かな学力を身に付けさせることができるであろう 学習段階における評価の重点化 評価にもとづく指導方法・指導体制の工夫 研究内容・方法 学習指導過程に児童の自己評価活動(ふり返り活動)を位置づける。 ふり返り活動と教師のガイダンスを生かした自己選択活動を工夫する。 補充と発展の二つのコースを設定する。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 立ち止まり活動を位置づけた学習過程の工夫 仮説 仲間と共に学ぶことを楽しむ子どもを育てるために、次のような点から学習指導の工夫をすれば、一人一人に確かな学力を身に付けさせることができるであろう 個に応じた指導のための教師や子ども自身の評価の工夫 多様な指導体制や指導方法の工夫 補充的な学習と発展的な学習の在り方の工夫 研究教科と領域：国語科（B書くこと）、算数科（図形）、社会科とする</p>
--------	--

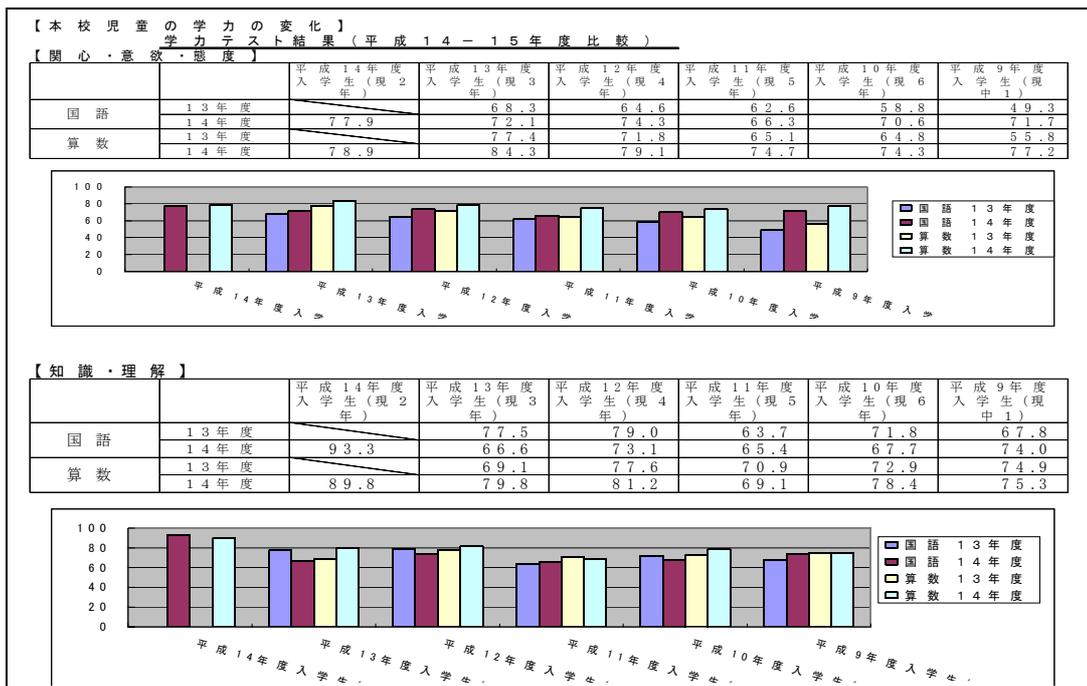
* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果



社会科では前年度の資料がないため比較ができない。
 学習への関心・意欲・態度面では、国語科でも算数科でもどの学年も前年度よりポイントが上がった。
 知識・理解面では、算数科では、ほぼどの学年でもポイントが上がった。
 国語科の読書では、前年度に比べ、学校図書館の利用も増え、読書量も全体的に増加し、意欲の向上が見られる。
 社会科学習に重点的に取り組むことにより、子どもたちは新聞やテレビなどでの社会科に関連した情報に敏感になるとともに、学校や家庭で日常生活の会話の中でも話題となることが多くなってきた。
 指導方法として評価に基づく指導の改善を進め、補充的・発展的な学習を全授業の中に位置づけた。

2. 今後の課題

立ち止まり活動（自己評価活動）を成立させる要件
 そのための教材の開発
 子どもたちの学力の伸びを捉える観点や方法
 学力の定着を図る教育課程上の工夫の在り方

学力等把握のための学校としての取組

- 1 学力の経年変化について
 - ・全国標準学力検査
- 2 単年度の学力の定着について
 - 関心・意欲・態度面の実態把握・・・・・・・・全学年での意識調査
 - 知識理解・技能面・・・・・・・・学期末テストなど
 - 思考力・判断力などの課題解決能力・・・各教科ごとに方法を工夫

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 実践交流会の開催予定
 - (1)日時 平成16年10月15日 (2)場所 広川町立中広川小学校
 - (3)対象 福岡県全小学校
 - (4)目的 3年間の研究による学力向上の成果を公開すると共に、そのための方法について広く周知する。
- 2 研究成果普及の方法
 - (1)平成15年度実践交流会の開催
 - (2)HP作成(16年度予定) (3)パンフレット作成(16年度予定)
- 3 研究主任がフロンティアティーチャーとして近隣校(1校)へ3月に講師として研究成果の普及を行う予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無